

ムカシの競馬を読む

平成18年・京都競馬場
京都金杯
優勝馬:ビッグプラネット

© JRA



第125回 10年・20年・30年前の1月

いつもこの連載は10年前・20年前・30年前の出来事をお送りしているが、今月分については30年前にちょうどどイギリやすい事件が見当たらなかつた。変則的な形になつてしまつが、10年前・20年前という形でお送りさせていただきたい。

その10年前、平成18年の1月といふと、両金杯の大波乱で始まつた月である。中山金杯は7番人気のビッグプラネットが勝ち、2着に12番人気馬を連れてきたこともあつて3連単は41万円台だつた。さらにこの京都金杯は、1着からの着差がクビ・ハナ・ハナという接戦のうえ、勝ち馬と同タイムで4位入線のエイシンドーバーが12着降着という結果に。正月から色々スリリングなレースであつた。

その平成18年1月に起きた出来事として、日本調教馬初の快挙をご



ムカシの競馬を読む



紹介しよう。7日付のサンスポから。「米国競馬のエクリプス賞の芝牝馬部門で、シーザリオが日本馬としては初めて最終選考馬にノミネートされた。G1アメリカンオークスを1分59秒03のレースレコードで4馬身差圧勝した」ことが評価されたもの。ロバート・フランケル調教師が管理するインター・コンチネンタル、メガヘルツの2頭と最優秀芝牝馬の座を争つことになる」

結果はご存知通り、ブリーダーズカップ・フライリー&メアターフを勝っていたインター・コンチネンタルが受賞し、残念ながらシーザリオは選外となつた。

日本人所有馬はエーピー・インデイガ年度代表馬まで取つてゐるが、日本調教馬は今に至るまで受賞していない。「芝牝馬」はF&Mターフ一発でいいそなうなので、誰かが狙つてみてもいい部門だと思つ。07年に創設された「短距離牝馬」という

名を逮捕した。調べでは、昨年12月13日未明から朝にかけて、無施錠だった東京都大田区内のオートロック式マンションの立花騎手宅に侵入し、現金2万7千円と腕時計などを盗んだ疑い」もちろん泥棒自体よくない。しかし問題はこの先。容疑者の供述がこちら。

「防犯カメラのないフェンスをよじ登つて敷地に入り、鍵の開いている家から盗んだ。盗んだ金は平和島競艇に使つた」。

せめて大井競馬で使えよ、といふ話である。

続いて20年前、平成8年の1月。この年の金杯から「中山金杯」「京都金杯」というレース名になつたのだが、その初回の中山金杯が東京で行われるという間の悪さだつた。「東京で行われた中山金杯」の優勝馬はベストタイアップだつた。

この月の地方競馬の出来事から。まずはかなりマニアでないと覚えていないものを24日付の日刊スポーツから。

「3ヶ月の短期免許で来日したフランスのクロード・ピットヨ二騎手が23日、地方・笠松競馬場で初めて騎乗した。5鞍に出場し7, 2, 4, 5, 7着(後略)」

NARの公式サイトで調べてみると、後藤保厩舎の所属扱いだつた

部門も、F&Mスプリントの一発勝負で取れそなうので狙いどころだろう。

続いて、今にして思えば騒ぎすぎだつたんじやないのという出来事。26日付の中日スポーツから引用する。

「ライブドア事件の影響が25日、競馬第5レースに出走予定だつたシェアザブライトンが主催者の判断により競走除外となつた。同馬は9人の馬主の共有だが、東京地検特捜部に証券取引法違反容疑で逮捕されたライブドア前社長堀江貴文容疑者が含まれていた。起訴前だが、渦中の人物が関係する馬の出走は公正保持のため好ましくないと判断された」という

記事によると、堀江容疑者(当時は5%分を所有。代表馬主が60%を持ち、残り40%を8人で5%ずつ持つっていた)が、1月23日に創設された「短距離牝馬」という

最後にこの月の有名事件といえ

須田鷹雄

1970年東京生まれ。競馬ライター。サラブレ、大阪日刊スポーツなど各種媒体に寄稿中。

を逮捕した。調べでは、昨年12月13日未明から朝にかけて、無施錠だった東京都大田区内のオートロック式マンションの立花騎手宅に侵入し、現金2万7千円と腕時計などを盗んだ疑い」もちろん泥棒自体よくない。しかし問題はこの先。容疑者の供述がこちら。

「防犯カメラのないフェンスをよじ登つて敷地に入り、鍵の開いている家から盗んだ。盗んだ金は平和島競艇に使つた」。

せめて大井競馬で使えよ、といふ話である。

続いて20年前、平成8年の1月。この年の金杯から「中山金杯」「京都金杯」というレース名になつたのだが、その初回の中山金杯が東京で行われるという間の悪さだつた。「東京で行われた中山金杯」の優勝馬はベストタイアップだつた。

この月の地方競馬の出来事から。まずはかなりマニアでないと覚えていないものを24日付の日刊スポーツから。

「3ヶ月の短期免許で来日したフランスのクロード・ピットヨ二騎手が23日、地方・笠松競馬場で初めて騎乗した。5鞍に出場し7, 2, 4, 5, 7着(後略)」

NARの公式サイトで調べてみると、後藤保厩舎の所属扱いだつた

ようで、初勝利を2月7日あげているが、詳細な成績は分からぬ。笠松で「大黒社」という予想屋を営む一岡浩司さんのブログによると、3ヶ月の免許期間に3勝くらいしかなかつたのではないかとのこと。当時の笠松は下級条件でも1着50万円くらいの賞金はあつたので、本人としてはまずまずの稼ぎだつたかも知らなかつた。地方競馬の短期免許騎手といふとスコット・サイトウが有名だが、笠松にも外国人騎手がいたとは。この手の話は整理しておかないと、時間とともに埋もれてしまいそうだ。地方競馬は昔から単発の招待競走なども多く実施してきたので、その記録もまとめておきたいものである。

そういえば、この連載の初期に騎手をテーマにした際、マイク・ベネットという騎手が中央競馬における短期免許騎手(今と制度は異なるのはしりである)ことを記したが、先日松山康久元調教師に伺つたところ、飼料会社の方が各方面に調整して呼んだものだつたところはいたそうだ。この辺りも整理しておきたいところである。

最後にこの月の有名事件といえ

ばこれ。26日付のデイリースポーツから。

「25日午後0時20分ごろ、大井競馬所属の競走馬スーパーオトメが競馬場から場外に逃げ出し、東京・大田区の首都高速道路を通行車両とともに約3キロを走るといふ仰天事件が起つた。洗い場で前搔きをして倒した空き缶の音に驚いて馬が暴れだし放馬逸走したものだが、冬のボカボカ陽気に誘われた珍事に高速で走行中のドライバーはびっくり(後略)」

当時は面白い出来事として扱われ、単勝馬券が交通安全のお守り券から。

「いつたん見失つてしまつたんです。こんなコメントが載つてました。馬に起因する人間の死亡事故なども起きている。

ちなみに同紙には厩務員さんとの会話が載つてました。

「いったん見失つてしまつたんです。馬が、こうち方にどううと進んだら、高速料金所の人が『馬が入つていつたよ』と教えてくれたので、必死に高速公路を自転車で追いかけてました」

いやいや、自転車で高速を走るのもあかんやろ、という話である。

「高速料金所の人」も止めろよとしか言えないが、当時はいまより世間のものだかだつたようだ。

が、その夜ホリエモンが逮捕されたためこのような騒ぎになつたようである。さらに、正式には刑の確定前にはこのような措置はとれないそういうのだが、確定どころか起訴前に出走を止めたのだから、主催者もだいぶ焦つてゐたのではないかと思われる。

問題のシェアザブライトンは仕切り直して(馬主の所有割合を調整したものと思われる)2月24日のレースに出走し、2着。除外になつたレースを走つていたら勝つていたかも……と思うともつたいない。

南関東からもうひとつ。11日の日刊スポーツからこちらの出来事を。

「大井競馬所属の立花伸騎手宅に忍び込み現金などを盗んだとして、警視庁大井署は10日までに窃盗容疑などで住所不定、無職の1容疑者(筆者注:元記事では実